

# Jwima 通信

Japan Writing Instruments  
Manufacturers Association

## 日本筆記具工業会

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里2-30-6

TEL03-3891-6161 FAX03-3802-9692

発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会

URL <http://www.jwima.org>

## JISからISO規格に ゲルインキボールペンの国際規格 予備投票で承認を獲得。いよいよ本投票に向けて始動。

ゲルインキボールペンは我が国が世界に先駆けて開発・製品化したもので、技術面でも世界をリードしています。国内にはすでにゲルインキの特性を規定したJISが制定されましたが、これに対応する国際規格がないのが現状で、JISをベースにしたISO（国際標準化機構）規格の制定に、我が国が積極的な働きかけを行っています。その活動を担っているのがJWIMAの技術国際委員会です。

本年上期は、直接の審議機関となるISO/TC 10のPメンバー（投票権国）により、我が国の提案を登録することについての投票が行われ、7月、これはめでたく承認されました。この投票はいわば予備投票のようなものですが、この間、委員会のメンバーはたいへんなご苦勞をされました。

さて、この予備投票が承認されたのを受けて、いろいろ“本投票”に向けて動きだし出したのですが、ISO/TC 10事務局からは次のような要請がありました。

（1）オスロでのISO/TC 10総会でTC 10にWG 18を新設することが決まったが、日本がコンビナー（主催者）とプロジェクトリーダーを引き受けること。

（2）WGの日程は日本に任せるが、最終DIS（Draft international standard）投票の結果が来年5月のISO/TC 10総会までに採択されれば、来年6月か7月に規格が発行される。

（3）韓国からコメントが出ているので、専門家の検討を経てDIS投票にかける。

（4）ケニアのボールペン規格（油性とゲルインキの内容が混在）も参考にしてもらいたい。以上です。

技術国際委員会のメンバーはこれら付帯された要請を速やかに解決し、ゲルインキボールペンの規格において我が国がリーダーシップが発揮できるよう活発に活動しております。



# 18年度上期委員会活動報告 (平成18年4月～9月)

## <総務委員会>

）会員の動静について（H18.4.1～9.30）  
 新規加入：0社、退会：0社  
 10月1日現在会員数：63社、1団体  
 総会、理事会、幹事会等の資料作成と開催  
 会員研修会の開催（10月3日）  
 中小企業信用保険法・特定業種の指定申請  
 及び更新  
 化学品等に関する情報の提供  
 消費生活用製品安全法の改正内容についての  
 情報提供  
 第3回 JWIMA ゴルプコンペの実施  
 （9月16日）  
 収支決算書の作成、他

## <流通委員会>

2006年版カタログ実態調査を実施した  
 JANコード及び廃番商品の告知状況  
 アンケートを実施した  
 お客様対応情報交換会を定期的に行った  
 お客様対応事例集の作成に着手した  
 お客様への商品知識啓蒙について検討した  
 油性ボールペンの劣化について、逆流の説明に  
 ついてなど。

## <調査研究・広報委員会>

筆記具関連の国内外統計を収集し本工業会のホ  
 ームページに掲載した（対象国：日本、米国、中  
 国ノ右、統計トップ頁）  
 本工業会ホームページコンテンツの更新をした  
 新たに筆記具お役立ち情報「シャープペンシル  
 編」の作成に着手した（進行中）  
 本工業会ニュースを発行・刷新した  
 年末講演会に関して講師の選定、調整等を行った

JWIMA URL: <http://www.jwima.org/top.html>  
 米国・中国の統計資料は会員専用のコーナーで掲載しています。  
 このコーナーにアクセスするにはパスワードが必要です。事務  
 局にお問い合わせください。

## <技術国際委員会>

### 部会活動

鉛筆、色鉛筆及びそのしんJIS/ISO部会  
 JIS S 6006改正作業を行った  
 シャープペンシル及びシャープ用しんJIS/ISO  
 部会  
 JIS S 6005改正作業を行った  
 JIS S 6013：2002 シャープペン  
 シルの改正の是非について検討中  
 ボールペンJIS/ISO部会  
 新規分野・産業競争力強化型国際標準提案事業  
 委員会として、ゲルインキボールペンISO規  
 格提案活動中（本ニュース頁1参照）  
 マーキングペンJIS/ISO部会  
 ホワイトボードマーカーの業界基準作成を行っ  
 た（進行中）  
 事務用修正液JIS/ISO部会  
 JIS S 6055「事務用修正液」の見直し  
 は「追補」で対応することとした  
 知的財産部会  
 WIMA（米国筆記具製造団体）が主催する国  
 際フォーラムへ参加し、中国制筆協会と模倣品  
 問題について会談をおこなった  
 ISOT 2006にて実態調査やパネルディス  
 カッション等、模倣品対策活動を行った  
 他業界(玩具、時計の各協会合同)と知的財産交  
 流会を実施した  
 製品安全小委員会  
 米国消費者製品安全委員会(CPSC)および東  
 京都の調査により、一部の金属製アクセサリ  
 ーから高濃度の鉛が検出されたことに関して、筆  
 記具における現状調査とJWIMAとしての統  
 一見解を検討した  
 国際規格関連活動  
 ゲルインキボールペン ISO 規格提案活動に同じ  
 その他  
 消費生活用製品安全法の改正について意見を交  
 換した。  
 グリーン購入法の特定調達品目判断基準の見直  
 し状況について確認した。

## 経済産業省からのお願い

経済産業省では、工業統計調査を平成18年12月31日現在で実施します。この調査は、製造業を営むすべての事業所を対象として、その活動実態を明らかにすることを目的として調査します。調査結果は、国や地方公共団体の行政施策の重要な基礎資料として利用されるとともに、大学や民間の研究機関等においても広く利用されているところです。皆様から提出していただく調査票については、統計法に基づき調査内容の秘密は厳守されますので、正確なご記入をお願いいたします。

## JWIMA講演会・懇親会12月6日(水) <ご案内>

<講師にシンクロナイズドスイミング元日本代表ヘッドコーチ・井村雅代さんを迎えて>



ことしの「JWIMA講演会・懇親会」は12月6日(水)に決定しました。講演会は夕刻5時から、懇親会は6時20分からを予定しています。今回の講演会講師は、シンクロナイズドスイミング日本代表ヘッドコーチ・井村雅代さん。84年のロス五輪から04年のアテネ五輪まで6回のオリンピック大会で常にメダルに輝く選手チームを育て続けた名コーチ。シンクロファンに止まらずその華麗な演技で世界の人々を魅了、シンクロ人口の育成に貢献されています。

<日本代表コーチ在任中のメダル受賞歴>

- 1984年 ロサンゼルス五輪 シンクロ正式競技化、元吉・木村組でデュエット銅メダル
- 1988年 ソウルオリンピック 小谷・田中組でデュエット銅メダル
- 1992年 バルセロナオリンピック 奥野でソロ銅メダル
- 1996年 アトランタオリンピック チーム(8人制)銅メダル
- 2000年 シドニーオリンピック デュエットの立花・武田組、チームそれぞれ銀メダル
- 2001年 世界水泳選手権福岡大会 立花・武田組デュエットで世界大会初の日本人金メダル
- 2004年 アテネ五輪 デュエットの立花・武田組、チームそれぞれ銀メダル

## 「優良工場見学会」実施

年々参加者を増やして5回目となったJWIMAと日本鉛筆工業協同組合共催の「優良工場見学会」、ことしは11月8日(水)に開催します。今回は、自然豊かな那須方面を目指して日産自動車(株)栃木工場と麒麟ビール栃木工場を視察します。

【日産自動車(株)栃木工場】(栃木県河内郡上三川町上蒲生 2500) シーマ、スカイライン、フェアレディZなど日産の高級車の生産ライン。お客さまに最高の品質をお届けするために、づくり手の心が伝わるヒューマンなクルマ作りを心掛けています。国内最大規模になる工場敷地には、生産ラインだけでなく、鑄造・アクスル工場やテストコースなども設けています。

【麒麟ビール栃木工場】(栃木県塩谷郡高根沢町大字花岡 147)

ビール・発泡酒、チューハイ、チルド製品、清涼発泡飲料など、幅広い分野の商品を製造する多機能商品対応型の設備を持った工場です。ここでは、「ビールの歴史」や「ビールができるまで」のレクチャーを受けてから、生産ラインその他の見学を行います。もちろん「できたてビール」の試飲もセットされています。



日産自動車(株)栃木工場

## 第3回ゴルフコンペ開催

JWIMA主催の「第3回ゴルフコンペ」を9月16日(土)開催しました。コースは、東京江東区にある「若洲ゴルフリンクス」。近隣のゴルフ場を希望される会員が多かったことから、都内のコースを選びました。優勝はテーボー販売(株)の石井 洋さん、第2位は(有)千代田塗装工業所の角井康郎さんでした。グリーン上で深める業界の絆はまた格別のもの。今後もみなさんの参加をお待ちしています。

### 題字が変わりました 日本筆記具工業会ニュース

調査研究・広報委員会が2001年12月に発行を始めた日本筆記具工業会ニュース。会員の皆様が求める情報を掲載するため、今年の春にアンケートを実施、この要望にそってデザインや編集等に新しい工夫をしています。また、カラー版工業会ニュースのメールでの配信、インターネットを通じての閲覧・ダウンロードなどの準備も整えました。これらもご意見ご要望をどしどしお寄せください。

日本筆記具工業会ニュース閲覧URL ; [http://www.jwima.org/jwima\\_news/jwima\\_news.html](http://www.jwima.org/jwima_news/jwima_news.html)

# 業界注目のテーマで、多数の参加者

## JWIMA 会員研修会を10月3日開催

総務委員会は、会員の知識の交流を通じて業界のレベルアップを図るため会員研修会を定例実施しています。今年は10月3日（火）1時から東京文具工業健保会館で実施しました。

今回は第一部に「筆記具に関する欧州化学品規制の動向について」。サクラクレパス品質管理部の白井隆博さんに、最も新しい欧州の規制情報と今後の展望などについてレクチャーを頂きました。第二部は「中国市場での販路開拓とリスクマネジメント」。中小企業基盤整備機構太田泰雄さんを客員講師に迎え、中国でビジネスを成功させるためには、失敗しないためにはといった実務的な中国ビジネスの知恵を頂きました。

規制をいかに先取りするか、マーケットをいかに拡大するか ともに業界人が注目しているテーマだけに用意された約90席はほぼ満席に。それぞれに活発な質疑も寄せられました。参加者から寄せられたアンケートにも、高い評価と今後への期待が表れていました。

研修会を終えて5時過ぎから会場をベルモントホテルに移して懇親会を開催。講師さんを囲んで個別の相談をするなど、盛んな交流がありました。

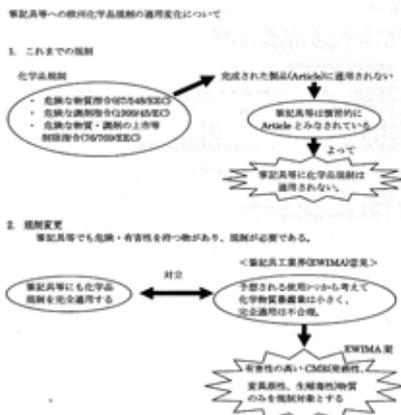


### 筆記具に関する欧州化学品規制の動向について

白井隆博氏  
 (株)サクラクレパス  
 品質管理部主任



筆記具は、いわゆる完成された製品であるため、これまで欧州共同体においては化学品と見なされず、一般化学品規制の対象外とされてきました。しかし、筆記具であっても、危険・有害性を持つ物はあるので、一般化学品規制を完全適用すべきではないか、といった意見も最近出てきております。



### 中国市場での販路開拓とリスクマネジメント

太田泰雄氏  
 中小企業基盤整備機構国際化支援アドバイザー（中国担当）  
 中国でビジネスを成功させるためにはまず「行動を起こすこと」、中国で失敗しないためには「中国を知ること」であります。中国では知れば知るほど得をします。知らないとは損をします。



アンケートの声 (%)

テーマ	難しかった	ちょうどよかった	もの足りなかった
筆記具に関する欧州化学品規制の動向について	34	38	28
中国市場での販路開拓とリスクマネジメント	0	96	4

今後の期待する講座内容 (人)

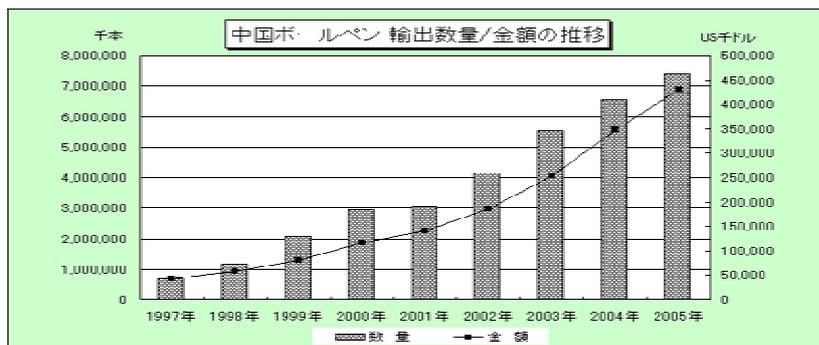
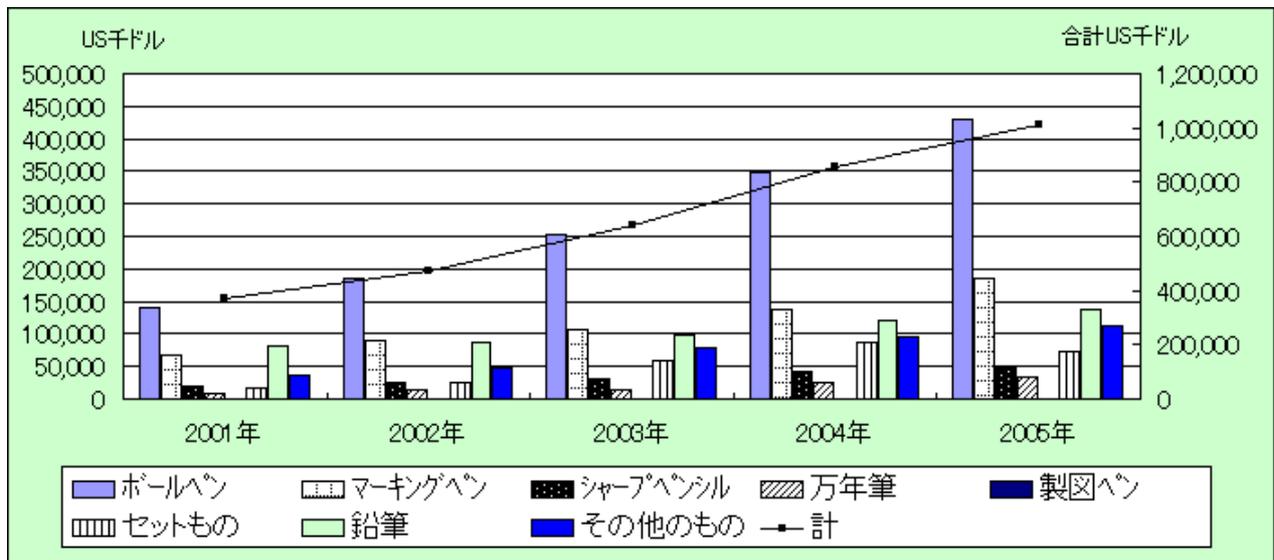
海外安全規制の動向について	42
製品の安全確保と関連法規について	38
闘うお客様相談室/クレマーの対応について	31
筆記具における模倣品対策活動	27
化学物質敏感症に関する規制動向について	19

# JWIMA発行 中国貿易統計2005より

1992年に全面的な開放政策に踏み切って以降、中国は世界最大の筆記具工場になった。1995年の輸出数量を「1」として2005年のその規模を推し量ると、ボールペンは17.5倍、マーキングペンは7.4倍、シャープペンは6.2倍、万年筆は7.5倍、鉛筆は1.8倍で、中でもボールペンが突出している。  
中国が輸出するボールペンは05年現在、数量で73億9300万本で前年比13%増、金額で4億

3000万ドル（円換算約495億円）で前年比24%増だった。その単価は、05年は1本0.058ドル（円換算約6.8円）で、前年より10%アップした。単価は99年を底に徐々に上昇する傾向がみられる。

中国製ボールペンの輸出先を地域別金額で見ると、北米がトップで32%、ついでEU29%、アジア25%、南米、アフリカと続く。輸出先別の単価を見ると、北米8.6セント、EU5.8セント、アジア5.5セント、南米4.4セント、アフリカ2.7セントと、地域によって単価に3倍以上の開きがあることがわかる。



02年以降、輸出数量・金額共に大場な伸張を示している。同年は、米国景気が回復に転じた年で、これを境に中国製品のシェアはますます拡大している。

中国製ボールペンの輸出単価は1本0.058ドル（円換算約6.8円）で、05年は前年より10%アップした。単価は99年を底に徐々に上昇する傾向にある。



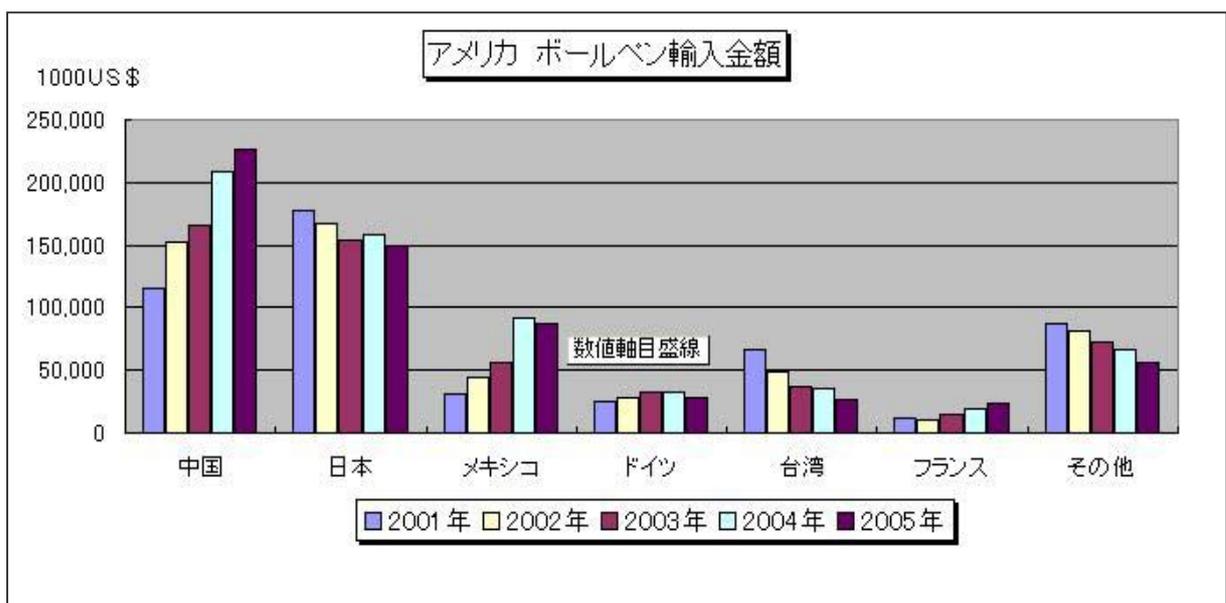
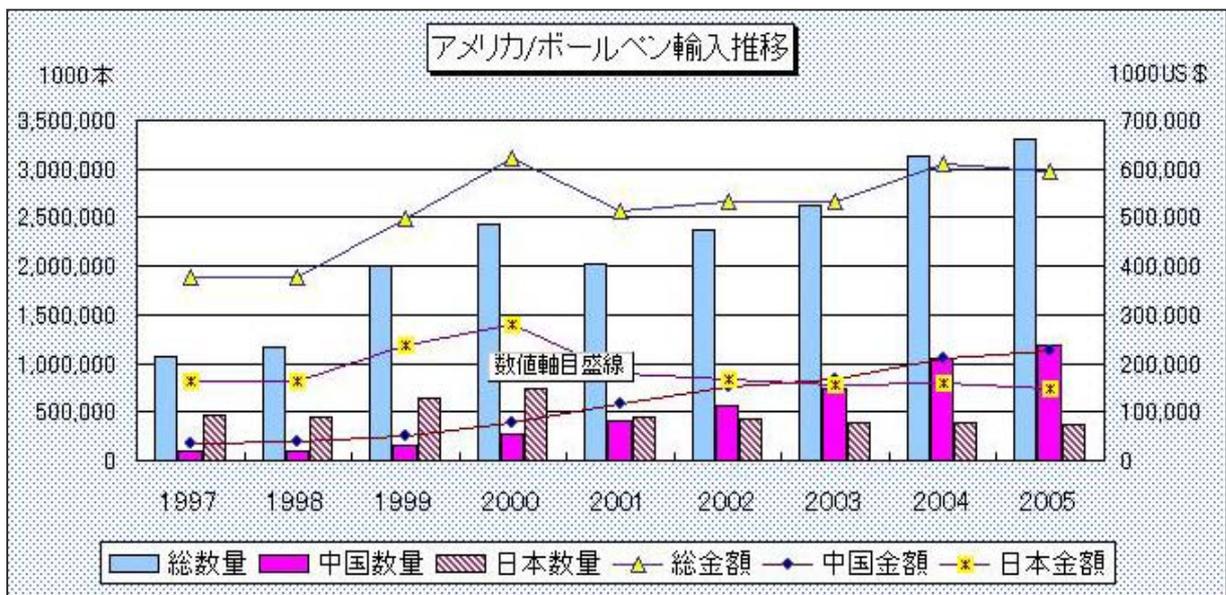
統計資料をご希望者に提供しています。事務局まで、連絡ください。

## JWIMA発行 米国貿易統計2005より

米国は旺盛な消費力を背景に、右肩上がりの輸入増加を示している。同時多発テロ事件に見舞われた2001年に急速な消費萎縮があったものの、02年から滑らかな回復基調に入り、2005年の筆記具類総輸入金額は2000年当時の11億ドルを超えた。

金額・数量ともに輸入筆記具の中心的な存在のとなるボールペンも如実にこの基調を反映した。05年のボールペン輸入は数量で33億本、金額で5億9千万ドル。数量の前年比はプラス6%で、金額は

逆にマイナス3%だった。数量と金額の推移が背反している理由は、産出国内訳にある。05年の中国製品の輸入比率は金額で38%、我が国は25%と後退している。2000年時点は、我が国が44%で中国が13%という構成だった。このシェアが逆転したのは2003年で日中が拮抗し、以降2年で15%近く水をあげられることになった。さらに第三勢力として注視しなければならない国がメキシコだ。05年で米ボールペン輸入金額の15%程度の生産国だが、過去5年で3倍近いシェアアップを果たした。NAFTA加盟により関税がゼロになったことが要因かと考えられる。



統計資料をご希望者に提供しています。事務局まで、ご連絡ください。